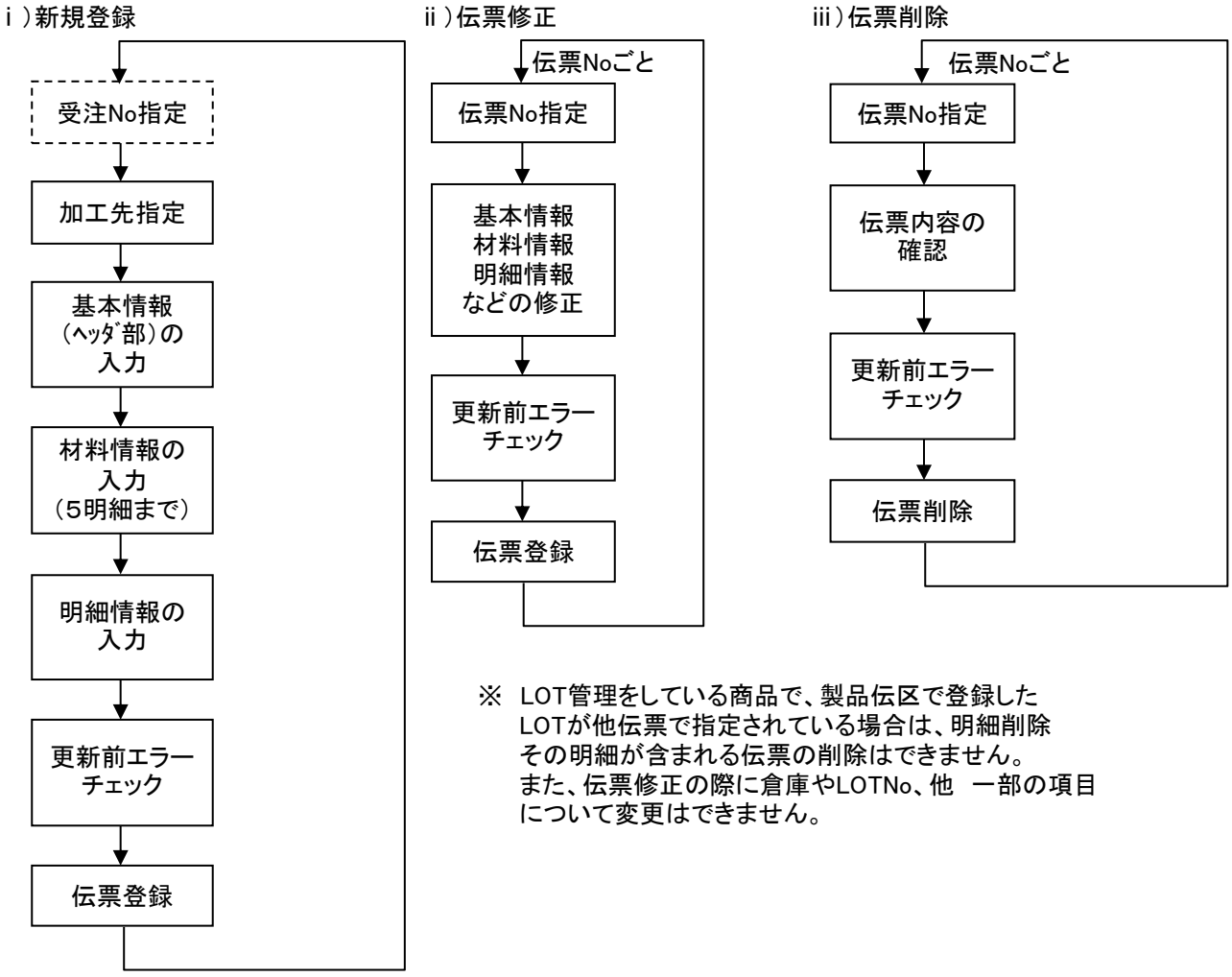
加工入力

加工伝票を登録すると、材料、製品、残材の在庫管理を行うことができます。
※新規登録・修正・削除、キー操作方法などは「伝票入力画面　共通基本操作」を参照してください。

Point

・加工入力することにより、以下の業務が可能となります。
① 指定した日付で製品の在庫を増加、材料の在庫を減少させることが可能です。
残材が発生する場合は、残材_の在庫を増加させることが可能となります。
② 加工依頼書を発行することが可能です。

1） 加工入力の操作の流れ

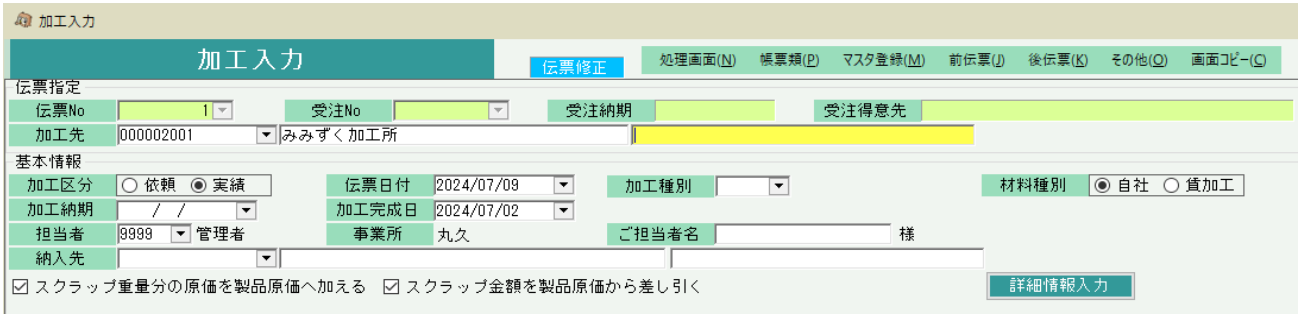


※ LOT管理をしている商品で、製品伝区で登録した
LOTが他伝票で指定されている場合は、明細削除
その明細が含まれる伝票の削除はできません。
また、伝票修正の際に倉庫やLOTNo、他　一部の項目
について変更はできません。

※新規伝票は、受注明細を指定して作成することも、受注関係なしに作成することもできます。

2） 基本情報（ヘッダ部） 項目の説明

入力画面の上部にある基本情報をヘッダ部と呼びます。
ヘッダ部には、1伝票共通で設定できる項目が表示され、入力することができます。



項目名称	説明
伝票No	加工伝票Noです。
受注No	新規入力の場合に指定可能です。 受注Noを指定すると明細情報に受注伝票の内容が初期表示されます。
受注納期 受注得意先	受注Noを指定すると、受注伝票の基本情報の納期、得意先名を表示します。
加工先	仕入先ｺｰﾄﾞを指定します。マスタ検索の画面から選択も可能です。 加工先名は仕入先ｺｰﾄﾞを入力すると仕入先マスタの名称が表示されます。 表示後に訂正可能です。
加工区分	「依頼」「実績」から選択します。 「依頼」を選択した場合は、表示中の商品の在庫は変化しません。 「実績」を選択した場合は「加工完成日」を必ず入力してください。 加工完成日時点で、材料情報に入力した商品の在庫が減少し、明細項目で入力した 商品の在庫が増加します。 ・加工依頼書はどちらを選択した場合でも発行可能です。 ・明細で登録したLOTNoが他伝票に指定されている場合は変更できません。 依頼/実績の初期値は伝票機能設定で切り替え可能です。
伝票日付	加工伝票を登録した日付です。
加工種別	補助分類登録の加工種別　で登録したｺｰﾄﾞを指定します。 指定せずに伝票入力をおこなうことも可能です。
加工納期	加工納期を入力します。
加工完成日	加工区分が「実績」の場合は必須入力です。 この日付時点で在庫が増減します。
材料種別	「自社」「加工賃」から選択します。

項目名称	説明
担当者	この伝票の担当者を指定します。 仕入先マスタの営業担当者が初期表示されます。 事業所名は担当者横に表示されています。担当者の所属する事業所が表示されます。 事業所は伝票ごとに保持されていますので、登録後に担当者の所属する事業所が 変更となってもデータにセットされた事業所は変更されません。
ご担当者	伝票機能設定の「受注伝票のご担当者を複写する」がチェックONの場合は、 受注リレー時に、受注伝票のご担当者が初期値として採用されます。
納入先	納入先ｺｰﾄﾞを指定します。マスタ検索の画面から選択も可能です。 伝票機能設定の「受注伝票の納入先を複写する」がチェックONの場合は、 受注リレー時に、受注伝票の納入先が初期値として採用されます。
詳細情報 入力ﾎﾞﾀﾝ	詳細情報入力画面を起動し、摘要と備考が入力できます。 入力した内容は加工依頼書へ印字されます。 詳細項目欄のタイトルは運用設定で変更可能です。 備考欄はCtrl＋Enterで改行可能です。
スクラップ 重量分の 原価を 製品原価へ 加える	7ページの「6）歩留りを考慮した原価計算について」を参照してください。 チェックON/OFFの初期値は、機能設定で設定可能です。
スクラップ 金額を 製品原価から 差し引く	7ページの「6）歩留りを考慮した原価計算について」の 基本情報の「スクラップ金額を製品原価から差し引く」がチェックONの場合 を参照してください。 チェックON/OFFの初期値は、機能設定で設定可能です。

3） 材料入力項目の説明

入力画面の中部にある所を材料入力欄と呼びます。
ここで入力した在庫が減少します。

項目名称	説明
Gno （グループNo）	明細情報と紐づける場合に指定します。 明細情報と紐づけることによって、製品の原単価、原価を歩留りを考慮して計算することが可能となります。 また、スクラップ重量を算出する際にもグループNo単位で計算が行われます。
LOTNo	商品マスタのLOT区分が「LOT商品」の場合は必須入力です。 手入力またはF4・Spaceで表示されるLOT別在庫一覧画面から選択することも可能です。 LOTNoを入力すると、LOT入荷時の情報（商品コード、入荷時寸法、入荷時単価）などを取得し該当する明細項目の初期値として採用されます。 ※ LOT入荷時の商品ｺｰﾄﾞ、寸法以外は入力できません。 寸法を変更するLOTNoがクリアされます。
商品ｺｰﾄﾞ	切断する材料の商品コードを入力します。 LOTNo入力時は、LOT入荷時の商品ｺｰﾄﾞが設定されます。
品名	商品ｺｰﾄﾞ選択時に商品マスタの商品名が初期表示されます。 表示後の訂正も可能です。
品名２ （規格型番）	品名の補足情報を入力します。
寸法１～３ 長さ	商品コード入力時にマスタに登録している寸法と長さが初期表示され、 表示後訂正可能です。 LOTNo入力時は、LOT入荷時の寸法と長さが設定され、変更すると入力したLOTがクリアされます。 形状マスタに設定している重量計算区分に応じて単位重量が自動計算されます。
員数	材料として使用する数量を入力します。 員数の小数以下桁数は、運用設定にて修正可能です。
重量	材料として使用する重量を入力します。 入力した寸法と長さから自動で計算されます。 重量の小数以下桁数は、運用設定にて修正可能です。
原 （原単価区分）	P、Kのみ入力可能です。 商品マスタの原単価区分の値が初期表示されます。
原単価	商品マスタの売上原価計算法が「標準原価」の場合は標準原価単価を「最終仕入」「倉庫別移動平均」「月別総平均」「LOT原価」の場合は在庫単価が初期表示されます。
原価	原単価区分に応じて自動計算されます。 原単価区分「P」の場合： 原単価×員数 原単価区分「K」の場合： 原単価×重量
倉庫	ヘッダの担当者の事業所の倉庫が初期設定されます。初期値設定後に変更可能です。 指定した倉庫の在庫が減少します。
備考	備考を入力します。
LOT連番	LOTNo指定時に、システムで管理している連番が自動的に設定されます。

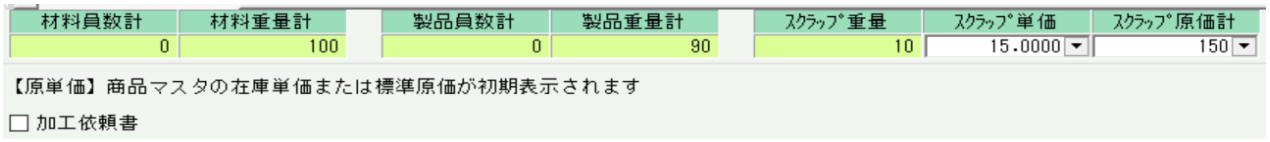
4） 明細入力項目の説明

入力画面の下部にある所を明細入力欄と呼びます。
ここで入力した在庫が増加します。

項目名称	説明
伝区	以下の伝区より選択します。 ・加製品・・・製品となる商品の明細を入力します。 ・入庫・・・　材料から製品を製作した際の残材を入力します。 ※　残材を再度在庫管理する場合は入庫伝区で処理をすることで在庫として戻すことが可能です。 在庫として戻さない場合は入庫伝区の明細は入力不要ですが、 材料重量－(加製品伝区の重量＋入庫伝区の重量)がスクラップ゜重量となり、 スクラップ゜重量分の在庫金額は加製品伝区の原価に反映されます
LOTNo	商品マスタのLOT区分が「LOT商品」の場合に入力可能です。 伝未入力で伝票を更新すると、伝票日付yymmddとLOT連番の下3桁が設定されます。 伝区が「入庫」の場合は入力必須です。 手入力または、F4・Spaceキーで表示されるLOT別在庫一覧画面から選択することも可能です。 LOTNoを入力すると、LOT入荷時の情報(商品コード、入荷時寸法、入荷時単価)などを取得し該当する明細項目の初期値として採用されます。
LOT連番	LOTNo指定時に自動的に設定されます。
Gno (グループNo)	明細情報と紐づける場合に指定します。 明細情報と紐づけることによって、製品の原単価、原価を歩留りを考慮して計算することが可能となります。 また、スクラップ゜重量を算出する際にもグループNo単位で計算が行われます。 ※　材料入力欄で指定したGno以外を指定することはできません。
商品ｺｰﾄﾞ	製品または入庫する材料の商品ｺｰﾄﾞを入力します。 コードを直接手入力するか、SapceまたはF4キーにてマスター覧より選択することもできます。
品名	商品ｺｰﾄﾞ選択時に商品マスタの商品名が初期表示されます。 表示後の訂正も可能です。
品名２ (規格型番)	品名の補足情報を入力します。
寸法	商品コード入力時にマスタに登録している寸法が初期表示され、 LOTNoを入力した場合は、LOT入庫時の寸法が初期値として表示されます。
公差	公差を入力します。
単位重量	形状マスタに設定している重量計算区分に応じて自動計算されます。 表示後訂正も可能です。 重量計算区分が、「単位重量×員数」「単位重量×長さ×員数」の場合は商品マスタの単位重量が表示されます。
倉庫	ヘッダの担当者の事業所の倉庫が初期設定されます。 ｺｰﾄﾞを直接変更するか、 F4またはSpaceにて表示される倉庫参照画面から変更も可能です。 指定した倉庫の在庫が増加します。

項目名称	説明
員数	完成品または入庫として戻す数量を入力します。
重量	完成品または入庫として戻す重量を入力します。 入力した寸法と長さから自動で計算されます。
原 （原単価区分）	P、Kのみ入力可能です。 商品マスタの原単価区分の値が初期表示されます。
単位	単位を選択または手入力で入力します。
原単価	商品ｺｰﾄﾞ入力時に在庫単価が初期値として設定されます。 LOT商品の場合は、材料入力欄のGNOと同じGNOを入力した明細の 入庫伝区やスクラップ重量・金額を考慮して原単価を算出します。 「詳細は次ページ 6）歩留りを考慮した原価計算について を参照」
原価	原単価区分に応じて自動計算されます。 原単価区分「P」の場合： 原単価×員数 原単価区分「K」の場合： 原単価×重量
備考	備考を入力します。
受注No 受注行No	製品伝区の場合に受注Noの欄でF4またはスペースキーを押すと、受注明細検索画面が 起動し受注明細を選択することが可能です。 製品明細と受注明細を紐づけることで受注No別原価表で集計することが可能となります。

5） フッタ項目の説明



項目名称	説明
材料員数計	材料入力の員数の合計です。
材料重量計	材料入力の重量の合計です。
製品員数計	明細項目の伝区を「加製品」に指定した員数の合計です。
製品重量計	明細項目の伝区を「加製品」に指定した重量の合計です。
スクラップ 重量	材料情報のグループNoと明細情報のグループNoが同じ 材料重量－明細重量の合計です。 ※ スクラップ重量を算出する場合は、運用設定の「ｽｸﾗｯﾌﾟ重量を算出する」の値を 【する】に設定しておく必要があります。
スクラップ 単価	「スクラップ重量×スクラップ単価」でスクラップ金額が自動計算されます。 F4またはスペースキーにて、スクラップ単価の初期値を設定できます。 初期値を設定すると、次回加工入力を起動したときのスクラップ単価の初期値として採用されます。
加工依頼書	チェックを付けると、伝票更新後に加工依頼書が即時発行されます。

6）歩留りを考慮した原価計算について

基本情報の「スクラップ重量分の原価を製品原価へ加える」がチェックONの場合に、
材料入力欄のグループNoと明細入力欄のグループNoが同一の「加製品」伝区の原単価を
重量の歩留りを考慮して自動計算します。
なお、基本情報の「スクラップ重量分の原価を製品原価へ加える」がチェックOFFの場合は、材料入力欄の原単価を
「加製品」の原単価として採用します。

材料入力

Gno	重量	原単価	原価
1	100	120	12,000

明細入力

伝区	Gno	重量	原単価	原価
加製品	1	60	130	7,800
入庫	1	35	120	4,200

スクラップ重量
5

スクラップ重量＝材料重量－加製品重量－入庫重量

$$「加製品」原単価 = \frac{(加製品重量 + スクラップ重量) \times 材料原単価}{加製品重量}$$

基本情報の「スクラップ金額を製品原価から差し引く」がチェックONの場合

材料入力

Gno	重量	原単価	原価
1	100	120	12,000

明細入力

伝区	Gno	重量	原単価	原価
加製品	1	60	128.75	7,725
入庫	1	35	120	4,200

スクラップ重量	スクラップ単価	スクラップ金額
5	15	75

$$「加製品」原単価 = \frac{(加製品重量 + スクラップ重量) \times 材料原単価 - スクラップ金額}{加製品重量}$$